

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（7月分）

留学先大学：ルーマニア・アメリカ大学

氏名：白越 明

<はじめに>

夏休みに入り、気が付くと、もうすぐこっちにきて6ヶ月が経とうとしています。ということは、留学生活も後半戦、のこり半分です。振り返ってみるといろいろあったけれど、あっという間ですね。正直、この7月はとても大変でルーマニアで生きるということの過酷さを知った月でした。この1ヶ月でルーマニアでの生活が大きく変化したので、そのことをメインに今月の報告書を書いていきたいと思います。

<引っ越し>

7月一番のビックイベントは、“引っ越し”でした。今までは、ルーマニア・アメリカ大学の寮で暮らしていたのですが、アパートで一人暮らしを始めることにしました。寮を出てアパートで暮らそうと思った理由は、寮にはキッチン、洗濯機、冷房、プライベートな空間がない、ルームメイトとの仲がうまくいかなかったなど…いろいろあるのですが、一番は自分の世界をもっと広くしたいからでした。大学寮は大学のすぐ隣にあり、近くにスーパーもあるので、正直大学の敷地内からあまり出なくても生活できていました。もちろん寮の家賃は安いし、生活は楽なのですが、次第に自分の行動している世界がとても狭いということに気付き、このままでいいのだろうかと思うようになりました。そして、自分は1年もいるのだから、外に出て、ルーマニアの人々の生活している中で一緒に暮らしてみたいと思ったのです。

しかし、ルーマニアで新居を見つけ、引っ越しをするというのは、想像以上に大変なことでした。5月の HARU-URARA のイベントが終わってからルーマニア人の友達と、大学の Erasmus オフィスの方に協力して頂き、引っ越し先を探し始めました。日本では、不動産屋さんを通してアパートなどを探すが一般的ですが、こちらではインターネットサイトなどから条件に合った物件を見つけ、その大家さんに直接連絡し、物件の下見やその他の交渉をするのが普通なようです。私もインターネットで情報を探したのですが、英語で掲載されているものは少なく、ルーマニア語で探すのでは圧倒的に情報量の差があ



る。ルーマニア語で掲載されているものは少なく、ルーマニア語で探すのでは圧倒的に情報量の差があ

りました。大家さんも英語を話せない場合が多いので、大家さんへの問い合わせもルーマニアの方にしてもらい、アパートの下見にもいつも着いてきてもらっていました。それでも、なかなか条件に合うところが見つからず、新居探しは難航しました。ようやく見つかったところも直前でやっぱり無理だと言われてしまったりして、結局新しく住むところが決まったのは7月の中旬でした。その後すぐに引っ越しをして、やっと20日ごろに引っ越しが完了しました！ルーマニア語が話せない私が、ルーマニアで住むところを見つけ、引っ越しということがこんなに大変なことだとは思っていませんでした。ルーマニアの方々の協力なしでは絶対にできなかったことだと思います。本当に感謝しています。

<新しい環境>

引っ越したところは、地下鉄駅、バス停、トラム駅も近く交通の便もかなり良いところです。すぐ近くにスーパーや市場もあります。大学まではトラム一本と歩きで45分くらいです。周りの環境も、今まで住んでいた大学寮とは全く変わりました。大学寮の周りは、他の大学や会社などが多く、住宅地は少なかったため静かで落ち着いた雰囲気だったのですが、引っ越したアパートの周りは完全な住宅地で、アパートもたくさんあり、小さい子供からお年寄りまで多くの人々が生活している“場”です。



これぞ私が求めていたものなのですが、引っ越しをして次第に自分がマイノリティであることを今まで以上に強く感じるようになり、圧倒的な孤独感とよそ者感を感じるようになりました。ここでは、自分以外のみんながルーマニア語を話し、日本語はもちろんのこと英語さえも一切耳にしないからです。アジア人っぽい見た目の人もまだ誰も見ていません。

また、ルーマニア語を必要とされる機会もかなり多くなりました。スーパーのレジ打ちの人も年配の人が多く、全く英語を話さない人がほとんどです。ここでは、ルーマニア語が話せない人なんて全くと言っていいほど住んでいないから、みんな私がルーマニア語を話せる前提で話しかけてくるし、英語を話そうとする人はほとんどいません。光熱費などに関する重要な情報も、アパートの掲示板にすべてルーマニア語で貼られているので、私にはこれが重要なものなのかさえも最初分かりませんでした。

先日、こんな出来事がありました。ポストにルーマニア語で書かれた紙切れが入っていて、私にはこれが何なのか全く分からず、数日後に他の郵便物と一緒にルーマニア人の友達に見せたところ、「これやばいよ！早く大家さんに知らせて！」と言われました。実は、私の前に住んでいた住人が光熱費を何ヶ月も滞納していたらしく、10日以内に払わないと警察に通報すると書かれていました。私がすぐに気付かなかったために、もうすでに10日経っ

てしまっていたので急いで大家さんに連絡しました。あとは大家さんが処理してくれたのですが、あのまま気が付かなくて自分の部屋に警察が急に來ていたらと思うとぞっとします…。

私がルーマニアでこのような経験をして、初めて気が付いたことがあります。それは、日本に住む外国人も同じように生きづらさを感じているのだらうなということです。日本では、ルーマニア以上に英語なんて通じないだらうし、見た目が全く違えば歩くだけでじろじろ見られるのでしょう。例えば、税金や光熱費などの大事な書類も、漢字だらけの堅い日本語のみで送られてきます。多少日本語が話せたとしても、そのような日本語を理解し、手続きをするのは日本語を母国語としない人にとってとても困難なことだらうと思います。日本にいたままでは絶対にできなかった経験だし、実際に自分も経験しないと理解できないことだと思うので、この経験はこの先必ず役に立つと思うし、日本で同じような思いをしている外国の人がいたら力になれると思います。

<まとめ>

新しいアパートでの生活についてはこれからも少しずつお知らせしていけたらと思います。今回は、少し暗い内容になってしまったのですが、これが私がルーマニアで感じている正直な気持ちですし、海外留学は決してすべてが楽しいわけではないです。でも、辛いことも絶対自分にとっていい経験になっていると思うし、自分自身とも向き合える時間だと思っています。半年たって、つい忘れがちになっていたけれど、ルーマニアという場所で私はとても貴重な経験をしているのだ、させてもらっているのだ、ということを中心に刻んで毎日を大切に過ごしていきたいと思っています。